

SDGs の認知向上のための地域で始める S D G s の実践

指導教員 金城大学短期大学部 美術学科 准教授 新井 浩
 助 教 大場新之助
 講 師 大谷 友理

参加学生

(幼 児 教 育 学 科) 橋詰 涼風・米田心・構梨乃・松本 花音・穴沢 結衣・小林 紗菜・
 中島 歩美・本田 愛実
 (ビジネス実務学科) 石黒 史華・玉村 優花・富井 歩美
 (美 術 学 科) 江川 杏香・尾崎 千紘・北村 珠美・向山 夢華

1. 活動の成果要約

今年度は学内において、SDGs 活動の実態調査を図るため「短大生の SDGs 活動の認知度アンケート」を行った。その結果を踏まえ、短大の実態や学生達の取り組みについて、白山地域づくり塾との勉強会において発表、意見交換を行った。美術学科の課題と連動して学生が作成した SDGs 活動を啓蒙するパンフレットが好評だったこともあり、白山市へ配布するために実作を進めている。

2. 活動の目的

2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標として、世界的に SDGs 活動に注目が集まる中、白山市は平成 30 年 6 月に「SDGs 未来都市」に選出された。金城大学短期大学部においても「SDGs 推進委員会」を発足し、これらの活動の意義について、学生目線の親しみやすい広報活動を行う。年に一回以上の成果物を作成や、金城短大の公式 HP や SNS、白山市の HP 等を利用し、情報発信を行っていく。学生達が自ら学び理解を深めていくなかで学内や地域への情報発信を行い、また自らが実践していく。

3. 活動の内容

- 8 月 白山市 SDGs 推進室、SDGs 推進委員会、学生代表者による合同勉強会 (約 30 名)
- 9 月 短大生、教職員に対する SDGs の第 1 回認知調査アンケート 540 件 (回収率 81%)
- 11 月 白山地域づくり塾と学生代表者による「SDGs 活動の取り組み」に関する意見交換会 (学生 14 名 (幼児教育学科 8 名、美術画家 3 名、ビジネス実務学科 3 名) 教職員 7 名 参加)
- 1 月 美術学科で取り組んだ SDGs に関する作品の中から、千代女キャラと SDGs 啓蒙を合わせたパンフレットを制作し、学内、白山市を中心に配布予定。



地域まちづくり塾との意見交換会

4. 活動の成果

1年目は短大におけるSDGs活動浸透具合の現状把握と学内啓蒙活動を中心に実施した。9月に行った認知度アンケートからは、予想以上に学生達の認知度が低いことが分かった(図1)。一方、自由記述の傾向からすでに行っている行動が「SDGs活動」という考え方に含まれていることを認識していない学生が多いことも分かった。積極的なPR活動を行うことで、意識的な活動へよりつながっていくと考えられる。

美術学科では、今年度前期にデザインコースを中心にSDGsをテーマにした制作を進めていた。そのため、美術学科の活動を中心に啓蒙活動を構想している。11月に開催した白山地域づくり塾との意見交換会において、デザインコースの学生が制作したパンフレットやリーフレットを紹介した。内容も好評であり実際にリーフレットの制作・配布することとなった(図2)。

◇図1

SDG's活動の認知調査 アンケート結果

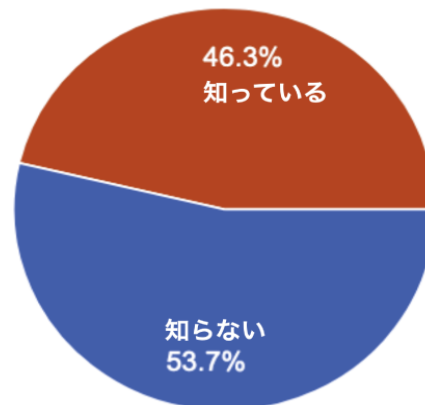
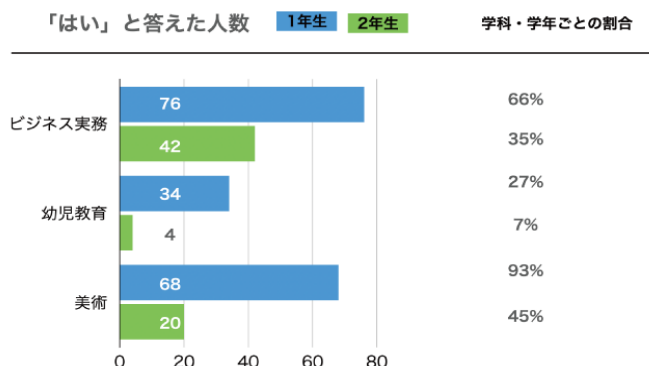
実施日 令和2年9月24日~10月12日

回答数 540件

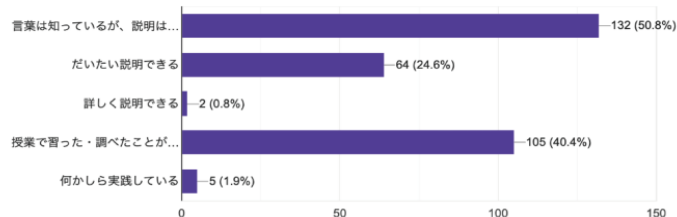
回収率 81% (学生のみ)

	1年生	2年生	その他	合計	回収率
ビジネス実務	114	120	2	236	85%
幼児教育	124	56	2	182	78%
美術	73	44	3	120	75%
教職員			2	2	

Q1 SDG'sという言葉を知っていますか？



Q2 知っていると言った人はどの程度知っていますか？(複数選択可)



Q3 「何かしら実践している」と答えた方はどのようなことを実践していますか？

- ☐ 買い物にエコバックを持っていく (4)
- ☐ リサイクル (2)
- ☐ こまめに電気を消す (3)
- ☐ ゴミのポイ捨てをしない
- ☐ ゴミの分別
- ☐ 節電
- ☐ 授業で冊子を制作した
- ☐ 食べ残しをださないようにしている
- ☐ 家にコンポストがある

15件

1年目としては学生意識の把握や白山市との連携もあり、良い滑り出しであった。

また、幼児教育学科では米川ゼミが独自に SDGs 委員を選出し勉強会が開催し、またビジネス実務学科では瀬戸ゼミが SDGs 活動についての研究発表を行うといった動きもでてきた。これらを受け次年度は学科を超えた活動ができるよう、教員間での意見交換が進んでいる。

◇図 2



5. 次年度の計画

今年度は、コロナ禍で学生の活動も制限されていたこともあり、当初予定していた web を使った情報発信や学内への掲示物作成などはあまりできなかった。今年度の作成したリーフレットと共に、重点的に取り組みたい。

また、白山市のビックデータ（地下水調査データ）を用いてプログラミング教育を白山市内の幼稚園、保育園や小学校低学年に向けて実施を検討している。この取り組みは、金城大学短期大学部 3 学科共同で行う事業として取り組める内容であり、本学としての SDGs 活動の基盤になると考えている。新年度が始まり次第、協力できる授業やゼミ担当者とスケジュール調整を行っていく。

6. 活動に対する地域からの評価

アンケートを行った学生からは「今現在、自分たちが行っている行動自体が SDGs 活動であることに驚きました。身近に感じることができました」、「SDGs 活動は色々なことがつながっていると改めて思いました」といった意見がありました。その他、白山地域づくり塾の方々からは「金城短大の学生がこれだけ一生懸命 SDGs 活動に取り組んでいる様子を見て、社会人としてより積極的に SDGs 活動に取り組んでいきたい」、「これから一緒に協力して SDGs 活動に取り組みたい」といった積極的な意見をいただきました。今回作成した SDGs 活動のリーフレットも分かりやすくこれからの啓発活動に使いやすいとの評価をいただいている。